

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
2024年度事業報告

1. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター

- ① フォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続し、発展させた。
- ② アカデミー運動の理念に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組んだ。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 当財団の事業展開の拠点として、関西セミナーハウス活動センターの公益目的事業に施設を提供した。
- ② 当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊施設及び会議場を諸宗教団体、労働組合、文化・社会活動団体、教育機関・学会・研究会等に供した。

(3) 広報活動

- ① 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター及び関西セミナーハウスの活動状況について、機関紙「はなしあい」、ウェブサイト等によって継続的に情報を発信した。
- ② 機関紙、ウェブサイト等により、年度事業計画、収支予算、事業報告、決算報告、その他当財団に関する情報を公開した。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的利用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の貸出を行い、その収益の一部を公益活動に資した。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資した。

2. 事業運営推進

公益目的事業の推進に当たっては、継続的事業、新規プログラムを問わず、予算計画を持ち、必要財源を確保しつつ、安定的継続可能な運営を行った。

3. 賛助会員、寄附金

公益法人への寄付により受けられる税制優遇措置を活用し、アカデミー運動を支援する賛助会員および寄附者からの支援を仰いだ。

< 2024年度事業活動報告 >

I 財団本部

1. 組織（2025年3月31日現在）

1) 理事会

理事 中村 信博（代表理事）、戒能 信生、神保 正男、神田 健次、
榎本 栄次、神崎 清一（計6名）

2) 監事

黒岩 裕二、柳井 一郎（計2名）

3) 評議員会

評議員 山本 俊正、（評議員長）、小原 克博、木原 活信、
増田 琴、横野 朝彦、原 牧人、（計6名）

4) 事務局

神崎 清一（事務局長、他4名）

2. 会議

1) 理事会

第1回 理事会（定時）2024年5月30日（木）オンライン会議
主な決議：2023年度事業報告、2023年度決算報告、
2023年度監査報告、2024年度定時評議員会招集

第2回 理事会（臨時）2024年10月29日（火）オンライン会議
主な報告事項：会計報告 上半期

第3回 理事会（臨時）2025年1月31日（金）オンライン会議
主な決議：2025年度事業計画策定、2025年度予算方
針

第4回 理事会（定時）2025年3月10日（月）オンライン会議
主な決議：2025年度事業計画、2025年度予算、
関西セミナーハウス経営委員委嘱、関東活動センター運営委
員追加委嘱、2025年度本部事務局体制、就業規則改定の
件

2) 評議員会

第1回 評議員会（定時）2024年6月15日（土曜日）
オンライン会議
主な決議：2023年度事業報告、2023年度監査報告、
2023年度監査報告、評議員長交代の件

3. 広報

機関紙「はなしあい」発行

2024年5・6・7月（634号）、8・9・10月（635号）、
11・12月・2025年1月（636号）、2・3・4月（637号）
（計4回）

4. 収益事業

当財団が持分を有する日本キリスト教会館の一部を以下の団体に賃貸し
た。日本基督教団出版局、特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス

日本・東京、公益財団法人東京YMCA、日本基督教団全国教会婦人会連合（2024年6月まで）社会福祉法人麦の子会（2025年2月より）

5. 東西活動センター運営委員懇談会

本法人の関東活動センターならびに関西セミナーハウス活動センター運営委員の合同研修会を開催。「研修と懇談のとき」として、各委員会の現状と課題、今後の取り組みを共有した。

あわせて、本会の使命である「はなしあい」「対話」の意義や進め方について学ぶ機会として開催。

日程 2025年2月23日～24日 場所 関西セミナーハウス

II 関東活動センター

1. 組織（2025年3月31日現在）

1) 運営委員会

運営委員 浦上 充（運営委員長）、
伊藤貴則、小田哲郎、戒能信生、古賀 博、平井祐美子、
東矢高明、友野富美子（計8名）

2) スタッフ

所長代行 古賀 博
ボランティア・スタッフ 浦上佳織（事務局）

2. 運営委員会

第1回 2024年5月23日（木）（対面・リモート併用開催）

運営委員会が新しい体制になって初めての委員会。各プログラムの実施状況の報告を行い、今後の委員会のもち方について検討した。

第2回 2024年7月25日（木）（対面・オンライン併用開催）

各プログラムの実施状況の報告を行った。2025年3月11日～13日の日程で開催する神学生交流プログラムを、西南学院大学と西南学院神学寮で開催することを決定した。講師の才藤千津子（西南学院大学神学部 学部長）氏を含む実行委員会にて綿密に計画を立てていくことを確認した。

第3回 2024年9月26日（木）（対面・オンライン併用開催）

各プログラムの実施状況を報告し、関東活動センターの新しい運営委員の候補について協議し、2024年度のパフレット「賛助会へのおさそい」を作成しPRしていくことを確認した。

第4回 2024年11月14日（木）（対面・オンライン併用開催）

2025年度開催する新規プログラムの可能性について協議した。

第5回 2025年1月16日（木）（対面・オンライン併用開催）

各プログラムの実施状況の報告と検討、反省を行った。202

5年度の開催予定プログラム、今後の検討課題について協議した。2025年度より、関東活動センターの新たな運営委員として小泉麻子（大和教会牧師）を理事会に推薦することを確認した。

- 第6回 2025年2月27日（木）（対面・オンライン併用実施）
2024年度の事業報告と2025年度の事業計画の確認、神学生交流プログラムの最終確認、2025年度の運営委員の確認、パンフレット「賛助会へのおさそい」の確認等を行った。

3. プログラム活動

1) フォーラム事業

(1) 関東フォーラム 今日の課題 I

連続講座「LGBTQ+と教会 壁を造らない共同体をめざして」

講師：中村吉基（日本キリスト教団代々木上原教会牧師／宗教とLGBTネットワーク代表）

日時：毎月第2火曜日 15:00～16:30 全6回

場所：日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター会議室

講座日程：

第1回 6月11日（火）LGBTQ+とは？ 参加9名

第2回 7月 9日（火）LGBTQ+と教会 参加10名

第3回 9月10日（火）LGBTQ+のパートナーシップを考える 参加7名

第4回 10月 8日（火）映画「ある少年の告白」から考える 参加5名

第5回 11月12日（火）アライになる～宗教者による取り組み 参加8名

第6回 12月10日（火）まとめ 参加6名

(2) 関東フォーラム 宗教対話 I（共催 早稲田奉仕園）

連続講座「LGBTQ+とキリスト教 性と生の正義に向けての聖書の読み直し」

講師：山口里子（聖書学者）

日時：毎月第2火曜日 18:30～20:00 全10回

場所：オンライン（Zoom）

登録者：54名

講座日程：

第1回 4月 9日（火）参加 30～40名

第2回 5月14日（火）参加 35名

第3回 6月11日(火) 参加 35名
第4回 7月 9日(火) 参加 35名
第5回 9月10日(火) 参加 34名
第6回 10月 8日(火) 参加 33名
第7回 11月12日(火) 参加 30名
第8回 12月10日(火) 参加 31名
第9回 1月14日(火) 参加 30名
第10回 2月18日(火) 参加 30名

(3) 関東フォーラム 宗教対話Ⅱ(開催無し)

「共に讃美歌を歌おう」

講師：小海 基

場所：日本基督教団 東中野教会

(4) 関東フォーラム 宗教対話Ⅲ

読書会「キリスト教と文学」

講師：柴崎聰(詩人・日本聖書神学校講師・豊島岡教会員)

日時：毎月第3火曜日 14:00～15:30 全10回

場所：日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター会議室

講座日程：

第1回 4月16日(火) ミヒャエル・エンデ『モモ』

参加8名

第2回 5月21日(火) 倉田百三『出家とその弟子』

参加9名

第3回 6月18日(火) ドストエフスキー『罪と罰』第1回

参加4名

第4回 7月16日(火) ドストエフスキー『罪と罰』第2回

参加6名

第5回 9月17日(火) 有島武郎『カインの末裔』『クララの出家』 参加7名

第6回 10月15日(火) ラーゲル・レーブ『キリスト教説集』

参加9名

第7回 11月19日(火) ヘンリー短編集 参加10名

第8回 1月21日(火) 太宰治『トカトントン』『ヴィヨンの妻』 参加11名

第9回 2月18日(火) カズオ・イシグロ『日の名残り』

参加11名

第10回 3月18日(火) 原田マハ『奇跡の人』 参加10名

(5) 関東フォーラム 宗教対話Ⅳ(共催 柏木義円研究会)

柏木義円公開講演会

講師：村松 晋（聖学院）

日時：2024年11月30日（土）

場所：オンライン（Zoom）

参加者：35名

（6）話し方ワークショップ

さらに豊かな礼拝のために ことばを届けるトレーニング

講師：友野富美子（日本キリスト教団深川教会牧師／元声優・舞台朗読者）

日時：毎月第3金曜日 18:00～19:30 全10回

場所：日本基督教団 東中野教会 礼拝堂

講座日程：

第1回	5月17日（金）	参加	7名
第2回	6月21日（金）	参加	8名
第3回	7月19日（金）	参加	7名
第4回	9月20日（金）	参加	7名
第5回	10月18日（金）	参加	5名
第6回	11月15日（金）	参加	7名
第7回	12月20日（金）	参加	4名
第8回	1月31日（金）	参加	4名
第9回	2月21日（金）	参加	7名
第10回	3月21日（金）	参加	10名

2）研修・セミナー・体験交流事業

（1）神学生交流プログラム

講師：才藤千津子（西南学院大学神学部 学部長）

校長：神田健次（関西学院大学名誉教授）

日時：2025年3月11日（火）～13日（木）二泊三日

場所：西南学院大学・西南学院大学神学寮&オンライン（Zoom）

主題：「これからのクリスチャン・リーダーシップ

～自らの弱さと共に歩む」

スタッフ：古賀博、浦上充、仲程愛美、吉岡恵生、神田健次（5名）、戒能信生（アドバイザー）

参加者：9名（オンライン参加者1名含む）

陪席者：1名（西南神学部教授 黄 南徳）

三日目は、フィールドトリップとして、太刀洗平和祈念館、カトリック今村教会、福岡城址・鴻臚館を神田健次先生の解説つきで見学した。

4. 評価と展望

- 1) 2024年度関東活動センターの運営は、Covid-19 感染症が落ち着いた中で行うことができ、対面とオンライン（Zoom）を併用して行われた。
- 2) キリスト教会館1階の事務所も、事務員が浦上佳織さんに代わり、これまでの資料等を参考にしながら事務作業を進めていった。この1年の間に各講座のプログラム参加者や賛助会員の名簿を確定することができたことは大きな成果であった。
- 3) 各プログラムは、連続講座の形で行われた。これは「はなしあい」を継続するためには、一度限りの講座ではなく永続的な学びとはなしあいの時が必要であるとの考えによるものである。

特に2024年度は、LGBTQ+に関する2つの講座が実施され、LGBTQ+を巡る世界や教会での動きといった社会的な側面（講師：中村吉基）と、聖書から見つめる（講師：山口里子）ことができた。

これまで、多年にわたり講師を引き受け、講座を牽引してくださった山口里子さんは、2024年度をもって一度退任することとなった。感謝をもって報告する。今後も折を見て、特別講座や連続講座を企画していきたいと思っている。

- 4) 第14回神学生交流プログラムは、初めて西南学院大学と西南学院神学寮を会場に行った。大学の寮を宿舎として借りることになったため、さまざまな打ち合わせやすり合わせが必要であったが、経済的な利点だけでなく、より深く神学生たちの交流が生まれたことは大きな成果であった。一方で、参加者を出すことの出来なくなっている神学校が増えていることや財政的な面での課題がある。
- 5) プログラムの中で、特に早稲田奉仕園との共催プログラムについては、リモート開講などの体制について多大な協力を得た。今後とも、早稲田奉仕園との協力体制を整えていくこととしたい。
- 6) 2025年度も、キリスト教会館の維持や管理組合の問題など課題もあるが、今後のさらなる進展を期待している。

Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター

1. 組織（2025年3月31日現在）

1) 運営委員会

運営委員 小久保 正（委員長）、榎本 栄次、榎本 空、大宮 有博、小笠原 純、織田 雪江、桜井 希、Christian Morimoto Hermansen、丸山 まり子、村上 みか、柳井 一郎、山本 知恵、山本 俊正（計13名）

2) スタッフ

所長 神崎 清一
所長代理 後宮 嗣
事務局 都木 かおり

2. 運営委員会

第1回 2024年4月13日（土）（ウェブ併用）

主な決議：6～7月のプログラム、開発教育セミナー第1回、第2回、修学院フォーラム「社会」第2回（シリーズ「戦争と平和」）、要項と予算承認。今年度事業計画確認。プログラム、寄付金など申込・クレジット決済のオンライン手続きの明瞭化。

第2回 2024年5月11日（土）（ウェブ併用）

主な決議：8月以降プログラム、修学院フォーラム「いのち」第1回（シリーズ「戦争と平和」）、要項と予算承認。木村護郎クリストフ氏プログラム提案検討、担当委員選任。来年度プログラム企画方法。2023年度事業報告・決算報告。プログラム特別寄付者への感謝状贈呈。オンライン申込・決済システム運用開始。次回運営委員会開催日時・開催方法変更。

継続審議：戦争と平和シリーズ出版計画、YouTube ライブラリーの運用。木村護郎クリストフ氏提案プログラム検討。

第3回 2024年6月14日（金）（ウェブ開催）

主な決議：9月以降プログラム、開発教育セミナー第3回、修学院フォーラム「いのち」第2回、要項と予算承認。2024～2025年度年度開発教育運営委員承認。YouTube ライブラリーHP バナー設置。

継続審議：来年度プログラム提案、来年度プログラム企画方法、戦争と平和出版計画。オンライン申込・決済システム改善と周知。

第4回 2024年7月27日（土）（ウェブ併用）

主な決議：10月以降プログラム、開発教育セミナー第4回、修学院フォーラム「福祉」第1回、要項と予算承認。次回日程・方法変更。YouTube ライブラリー改善策。

継続審議：来年度プログラム企画、戦争と平和出版計画。

第5回 2024年9月13日（金）（ウェブ開催）

主な決議：11月以降のプログラム、次回審議。11月「エキュメニカル・ネットワーク10周年記念会」後援承認。

継続審議：来年度プログラム企画、戦争と平和出版計画、メールマガジン検討。

第6回 2024年10月12日（土）（ウェブ併用）

主な決議：11月以降のプログラム、開発教育セミナー第5回、第6回、修学院フォーラム「いのち」第4回、要項と予算承認。クリスマス特別寄付願、承認。次回日程・方法変更。

継続審議：来年度プログラム企画、戦争と平和出版計画。

- 第7回 2024年11月8日（金）（ウェブ開催）
主な決議：1月以降のプログラム、修学院フォーラム「いのち」第3回、修学院フォーラム「福祉」第2回、修学院フォーラム「社会」第5回<エネルギーを考える>、要項と予算承認。修学院フォーラム「福祉」第3回（共催：京都YWCA）企画承認。
継続審議：2025年度プログラム計画、戦争と平和出版計画。
- 第8回 2024年12月7日（土）（ウェブ併用）
主な決議：2月以降のプログラム、修学院フォーラム「いのち」第5回、修学院フォーラム「福祉」第3回進捗、要項は次回審議。
戦争と平和出版計画、出版社支払い協力金は、プログラム支援特別寄付金から拠出を承認。上限50万円。
継続審議：2025年度プログラム計画、予算。YouTube ライブラリー規約作成、運営委員会資料印刷について。
- 第9回 2025年1月11日（土）（ウェブ併用）
主な決議：2月以降のプログラム、修学院フォーラム「いのち」第5回、修学院フォーラム「福祉」第3回、要項と予算承認。
YouTube ライブラリー規約承認。次回日程・方法変更。
継続審議 活動センター今後の在り方（プログラム、予算計画、広報）、戦争と平和出版計画。
- 第10回 2025年2月7日（金）（ウェブ開催）
主な決議：プログラム支援特別寄付金から、今年度は、修学院フォーラムの内、宿泊プログラムの講師経費(謝金・交通費・宿泊食費)ならびに、学生の参加費補助分の支援を承認。2025年度支援計画も承認。
2025年度プログラム、修学院フォーラム「いのち」第1回、修学院フォーラム「社会」第1回、要項と予算承認。（「いのち」第1回要項はメール回付による）
継続審議 2025年度事業計画案、予算案。戦争と平和出版計画。活動センター今後の在り方。
- 第11回 2025年3月8日（土）（ウェブ併用）
主な決議：2025年度事業計画案、予算案の方針と締切。参加費について、修学院フォーラムは据え置き、開発教育セミナーは値上げ対応とする。2024年度6月以降のプログラム、修学院フォーラム「いのち」第2回 要項と予算承認。2025年度寄付願い承認。2025年度運営委員会日程。期末資金繰、本部資金申請。
継続審議 戦争と平和出版計画。活動センター今後の在り方。

3. プログラム活動

1) フォーラム事業

(1) 修学院フォーラム 社会

目的 対立の背景を知るとともに、平和を作り出す対話の可能性、また、持続可能な未来のためにエネルギーと原発などの問題を共に考える。

第1回 題「預言者に学ぶ非戦のこころ―第2イザヤを中心に」
シリーズ「戦争と平和」

2024年4月13日（土）ウェブ、会場併用

講師：石川 立（同志社大学名誉教授）

参加者 43名

第2回 題「『戦争の時代』にしないために―沖縄対話プロジェクトの経験から」 シリーズ「戦争と平和」

2024年5月25日（土）ウェブ、会場併用

講師：岡本 厚（前岩波書店社長・元雑誌「世界」編集長）

参加者 22名

第3回 題「中東の平和を考える：アメリカはなぜイランと対立するのか」 シリーズ「戦争と平和」

2024年6月1日（土）ウェブ、会場併用

講師：中西久枝（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授）

参加者 26名

第4回 題「“地雷”ではなく、“花”を一報復ではなくいのちの連鎖へ」 シリーズ「戦争と平和」

2024年7月27日（土）ウェブ、会場併用

講師：松浦悟郎（カトリック名古屋教区司教）

参加者 27名

第5回 題〈エネルギーを考える―12〉

「避けられない原子力災害と、捨てられない使用済み核燃料：必要を満たして余りある太陽の光と風の力」

2025年3月30日（日）～31日（月）

「いのちを危うくする原子力発電」

講師 アイリーン 美緒子 スミス

（環境 NGO・グリーン・アクション代表）

「いのちを育む太陽の光と風の力」

講師 牛山 泉（足利大学顧問、名誉教授）

参加者 22名

（2）修学院フォーラム いのち

目的 歴史から非暴力を始めとする平和への努力を学び、エコロジーの手がかりを聖書に問い、また、旧約聖書のもつ現代的意義、いのちの尊厳について考える。

- 第1回 題「咸錫憲（ハム・ソクホン）のシアル（民）思想が
問いかける非暴力平和運動」
シリーズ「戦争と平和」
2024年12月7日（土）（台風のため8月31日
から延期）ウェブ、会場併用
講師 朴 賢淑（パク・ヒョンス）（大阪女学院大
学・短期大学准教授）
参加者 22名
- 第2回 題「『ギルガメシュ叙事詩』と旧約聖書」
2024年9月15日（日）～16日（月、祝）対面開催
講師：月本 昭男（立教大学、上智大学名誉教授）
参加者 16名
- 第3回 題「新しい視点で聖書を読む～『エコロジカル聖書解釈
の手引き』のフォローアップ～」
2025年1月11日（土）ウェブ、会場併用
講師：大澤 香（神戸女学院大学文学部総合文化学科
准教授）
参加者 15名
- 第4回 題「歴史を変えた非暴力主義
一再洗礼派からキング牧師まで」
2025年1月25日（土）ウェブ、会場併用
講師 踊 共二（武蔵大学リベラルアーツアンドサイ
エンス教育センター教授）
参加者 18名
- 第5回 題「スピリチュアルケアを考える
～病院チャプレンの立場から～」
2025年2月22日（土）ウェブ、会場併用
講師 藤井 理恵（元淀川キリスト教病院チャプレン）
参加者 17名

（3）修学院フォーラム 福祉

目的 地域社会、社会構造などがもたらす生きづらさを見つめ、
人との関わり方、現在と未来の可能性を考える。

- 第1回 題「夜回りの活動を通して見えてくるもの」
2024年10月12日（日）ウェブ、会場併用
講師 桜井 希（同志社中学・高等学校教諭）
参加者 16名
- 第2回 題「持続可能な福祉社会—人口減少社会のデザイン」
2025年2月15日（土）ウェブ、会場併用
講師：広井良典（京都大学人と社会の未来研究院教授）

参加者 24名
第3回 題「対話と尊重の文化を作る～修復的対話実践～」
共催・会場（公財）京都YWCA ウェブ、会場併用
2025年3月15日（土）
講師：毛利真弓（同志社大学心理学部准教授）
参加者 68名

2) 研修・セミナー・体験交流事業

(1) 開発教育セミナー [対面開催]

目的 人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、
私たちの社会のありようを考える。

- 第1回 題「開発教育入門セミナー
～SDGsを自分ごとに」
2024年6月23日（日）
共催 京都市国際交流協会 会場 京都市国際交流会館
講師 織田雪江、七宝可奈子（関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会）
ゲスト：ヤスミン タスリマ（バングラデシュ出身）
参加者 23名
- 第2回 題「パレスチナの平和をつくる
～今起きていることを植民地主義の視点から考えてみよう～」
講師：岡 真理（早稲田大学文学学術院教授）
2024年7月6日（土）～7日（日）
参加者 21名
- 第3回 題「私からはじめるアドボカシー
～市民社会を築くために～」
2024年9月7日（土）～8日（日）
講師 加藤良太（市民社会スペース NGO アクションネットワーク（NANCIS））
参加者 13名
- 第4回 題「市民（わたし）から始める
～難民と一緒に暮らせる街をめざして～」
2024年10月5日（土）～6日（日）
講師 田中恵子（NPO 法人 RAFIQ 難民との共生ネットワーク）
参加者 11名
- 第5回 題「地球と食の未来を考える Part2～おにぎり
とNISAから考える経済『金融化』のカラクリ～」
2024年11月30日（土）～12月1日（日）

講師：平賀 緑（京都橘大学経済学部）

参加者 19名

第6回 題「『植民地支配責任』を考える

～朝鮮学校の歴史と現状を学ぶことから～

2024年12月21日（土）～22日（日）

講師 板垣 竜太（同志社大学社会学部）

参加者 10名

（2）お茶のころと宗教のころプログラム

開催なし。

（3）展示、講演会事業

開催なし。

4. 評価と展望

1) 力ある者が、経済力と軍事力によって他を支配しようとする風潮が世界に蔓延している今日、繋がり合うことを通して平和、正義、いのちが尊ばれる社会の実現を目指して、修学院フォーラムが13件、開発教育セミナーが6件開催された。これらはいずれもそれぞれの専門分野でユニークな業績を挙げておられる講師を招いての、貴重な視点からの問題提起であり、関西セミナーハウス活動センターの存在価値を改めて認識させる集会であった。これらの集会で述べられた主張は、広くキリスト教会と社会で共有され、共感者を生み出していくことが期待される。

しかし、集会場への直接参加者はもとより、オンラインによる参加者も、後日 YouTube 配信で参加する人も多くは無かった。いずれの形態での参加者も、格段に増加させる工夫が必要である。

2) それにも関わらず、戦争と平和に関するフォーラムは6回に及び、前年度のフォーラム1回と合わせて、合計7回分のフォーラムを「戦争の時代としないために」と題する書物として出版する運びとなり、9月発行を目指している。この書籍が、広く教会と社会に受け入れられ、共感者を生んでいくことが期待される。

3) 今年度には、昨年度に引き続いて通常の寄附金と賛助会費とは別に、特別に200万円を寄附して下さる方があった。このおかげで、出版費用の半分を活動センターが負担することによって、先の書物の出版が可能になった。

また、この寄附のおかげで、宿泊プログラムの講師謝礼と交通費を賄い、全プログラムの学生参加費を大幅に低く抑えることができた。

4) 上記の特別寄付を除くと、賛助会費は、ほぼ年度予算を満たしたが、寄附金は、予算に40万円程度及ばず、本部会計からの補助を受けてなんとか必要を満たした。なんとか、補助なしで年度予算の必要を満たせるようにしたい。

IV 関西セミナーハウス

1. 組織（2025年3月31日現在）

1) 経営委員会

経営委員 神崎 清一（委員長）、神保 正男、
中村 信博、柴田 賢司、森口 明洋（計5名）

2) 人事委員会

人事委員 神崎 清一（委員長）、神保 正男
柴田 賢司、森口 明洋（計4名）

3) 館長 森口 明洋

4) スタッフ 職員2名、パートスタッフ10名、茶室担当顧問1名

2. 事業実績

1) 利用状況（カッコ内は前年度比、資料参照）

① 年間の延宿泊者数

上期 1,944名

下期 2,268名

合計 4,212名（98.9%）（前年より47名減）

① 個人団体比率

団体 4,031名（構成比95.7%）

個人 181名（構成比 4.3%）

2) 公益目的事業と収益事業分類別

(1) 宿泊分類別

① 公益目的事業

・アカデミープログラム 133名

・キリスト教諸団体 306名

・教育関係・学会・研究会 799名

・労働組合・文化・社会活動団体 904名

・一般諸団体 261名

合計 2,403名

② 収益事業

・一般諸団体 629名

・一般企業 277名

・人材育成法人 722名

・個人 181名

合計 1,809名

(2) 当日利用分類別

公益目的事業

・アカデミープログラム 170名

・労働組合、文化・社会活動団体 162名

合計 332名

(3) 宿泊及び当日利用合計

公益目的事業	2,735名 (構成比 60.2%)
収益事業	1,809名 (構成比 39.8%)

3) 損益実績 (資料参照)

- ・年間宿泊者数は目標 5,500 名に対し 4,212 名 (76.6%) であり、対前年を下回った (98.9%)。上半期は 4 月・5 月は前年度より回復したが、7 月・8 月の団体が定着せず低調だった。下半期、10 月・11 月は計画以上の利用があったが、1 月・2 月は前年度が好調だったため計画を見誤り低調だったため、下半期も計画には届かなかった。
- ・売上実績は計画 8,766 万円に対し 7,033 万円 (計画比 80.2%) 前年比 105% である。4 月から研修パック料金の価格を改定したため売上は前年度より増加した。
- ・宿泊利用団体の分類別内訳について今年度は、労働組合・文化・社会活動団体がトップ (21%) であった。秋の大口団体が前年までの宿泊シングル利用からツイン等の相部屋利用に変化したのが要因である。昨年 2% だった一般企業は全体の 6% となり企業の社員研修は若干回復したが、コロナ禍以前には戻っていない。
- ・支出実績は、売上原価 3,843 万円 (前年比 105%)、一般管理費 4,091 万円 (前年比 121%) である。
- ・その結果、営業利益は、△901 万円となり、計画の△320 万円から 581 万円の減益である。
- ・収支は減価償却引当資産支出 200 万円、固定資産購入支出 1200 万円を計上し、収支差額△1200 万円である。

4) 資金繰り

3 月末の現金および預金の残高は 1,927 万円である。

なお、この残高には減価償却積立金 1,100 万円、清心会残高 191 万円を含んでいる。

5) 寄付金

関西セミナーハウス単独で寄付金を募集し、計画 100 万円に対し実績 135 万円である。

6) 広報活動

- ・ホームページへの訪問回数は、前年度比 121% (37,683 回) であり、コロナ禍前の 2019 年度 (34,534 回) より増えた。
- ・ホームページのブログ更新回数は 9 回。ブログアクセス回数は前年の約 2 倍 (20,353 回) に増えた。Instagram は前年と同じく 33 回更新した。

3. 評価と展望

1) 運営状況

- ・コロナによる臨時休館解除 4 年目となるが、宿泊者数は前年度を若干

下回りコロナ禍前の５割強である。売上は研修パック単価を１,０００円～最大２,０００円値上げしたことにより客単価が改善し、コロナ禍前の７割まで回復している。

- ・個人宿泊プランについてはイベント時を除き休止している。本年度は新たに別館単独宿泊事業を立ち上げ、１２月から試行した。別館に団体利用がない日に限り、別館和室「さくら」を中心としたエリアを外国人観光客やグループ向けに一棟貸しする宿泊プランを外部委託にて販売した。試行前にはエアコンの増設やキッチンの改装など行い、利便性が向上した。別館新規稼働のための初期設備投資等総額は９９万円であった。次年度には本格的に事業を開始し、新たな設備投資として縁側サッシの改装を予定している。

本館の個人宿泊プランは、年末年始を除き希望する価格帯での販売できなかったため、今後工夫が必要である。

- ・ミーティングルーム「エマオ」の新設について、大会議室機材室横の応接室を最大７名まで利用可能なミーティングルームへ３月に改装した。内装を一新し、従来のソファセットからダイニングテーブル状のセットへ変更し、快適性が向上した。
- ・人員について、７月から職員１名を増員し、人員不足を補った。パートスタッフは宿直担当に１名欠員が出たが、１２月に宿直担当を１名採用した。３月末時点３名の職員とパート計１０名体制である。客室業務は秋の繁忙時期に職員がサポートしたため、今年度も外部委託はしなかった。

２）設備投資と修繕費

設備投資について、８００万円計画したが、前年度から繰越のエアコン改修工事７１５万円分が今年度計上であったために１,２００万円を固定資産計上した。残りの内訳は、エアコン改修１７４万円、応接室改装一式１４８万円、厨房スチームコンベクション入替１６２万円である。

６月に茅葺門の総葺き替えを行い、総額２９４万円の内、１４６万円を本部指定寄付金から支出し、残り１４８万円を修繕費に計上した。このほか別館単独宿泊事業開始に伴う備品購入など前向きな投資ができた。

次年度は別館和室縁側サッシ改修工事、北棟共用部改装、ロビーカフェスペース改装、事務用パソコン入替等の投資を予定している。

添付資料：２０２４年度関西セミナーハウス損益計算書実績

Ⅴ 本部２０２４年度事業報告

１．運営体制

事務局と各事業単位の会計について連携について新年度予算作成などにも連携をすすめることができた。本部として各活動センターへの支援として担当者を配置し、執行についても連携を深めた。

また、活動センター運営委員の研修会を実施した。

2. ミッションの確認と拡充

機関紙、セミナー、委員研修会において諸外国におけるアカデミー運動を学び、その推進に努めた。

関連する団体、機関との連携の可能性を検討し、情報収集ならびに委員派遣などに取り組んだ。

3. 広報活動

機関紙「はなしあい」の A4 サイズ・カラー化への変更を行い、定期（4 回）発刊を行った。

関係者ならびに団体、支援者へのクリスマスカードを作成し発送。

4. 日本キリスト教会館の管理

会館のオーナー会と協力し維持管理に努め、テナントの施設利用の協力。

また、一団体の解約あったが、新たな法人との契約をすることができた。

5. 2025 年度以降の役員改選ならびに委員会運営、事務局体制を検討し、次年度の継続課題として取り組むこととした。

（ 以上 ）